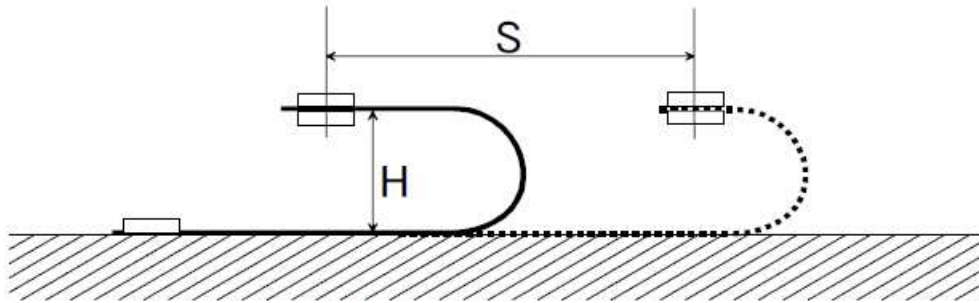


OKI 『可とう形オキフレックス』の屈曲性能(他品種比較)

【概略】

元来、フラットケーブルは可動部分への実装は不適であり固定実装が前提です。オキフレックス・シリーズの中で『可とう形オキフレックス』はこの点を鑑み、繰返し可動を生ずる部分への実装にも適合する品種です。その耐屈曲性について、下記の屈曲試験結果を示します。



S: 移動ストローク(=350mm) H: ケーブル高さ60mm

〈試験サンプル〉

- ・ブリッジ形オキフレックス(15心)
- ・可とう形オキフレックス(19/0.08タイプ、15心)
- ・可とう形オキフレックス(30/0.08タイプ、16心)

〈試験条件〉

- ・試験温度: 常温
- ・移動速度: 40回/分(1回=1往復とする)

〈試験結果〉

N	ブリッジ形オキフレックス (7/0.127、15心)	可とう形オキフレックス (19/0.08タイプ、15心)	可とう形オキフレックス (30/0.08タイプ、16心)
1	200万回までで断線	1,000万回以上で断線なし	1,000万回以上で断線なし
2	240万回までで断線	1,000万回以上で断線なし	1,000万回以上で断線なし
3	180万回までで断線	1,000万回以上で断線なし	1,000万回以上で断線なし
4	—	1,000万回以上で断線なし	1,000万回以上で断線なし
5	—	1,000万回以上で断線なし	1,000万回以上で断線なし

(記載データは、弊社測定装置での実測値であり、保証値ではありません)

【解説】

ブリッジ形オキフレックスの導体は7/0.127であるのに対し、可とう形は19/0.08(標準)および30/0.08(特注)です。導体構成の撚り本数を多くしたことにより、大幅な屈曲性能の向上が図れることが判ります。可とう形オキフレックスの屈曲性能はブリッジ形の5倍以上になります。